

〔住吉物語〕住吉にゆきたれば、○中南は一むらの里ほのかに見えて、とまやどもにみるめかりほし。○下

〔源平盛衰記十一〕有王俊寛問答事

僧都○俊寛宣ケルハ、○中浪タ、ヌ日ハ磯ニ出テ、岩ノ苔ヲムシリテ、潮ニ洗テ食物トシ、汀ニ寄

タル海松和布ヲ取、和カナル所ヲカミテ明シ暮ス、

〔海道記〕十三日○真應二年此浦○江尻を遙に見渡して行ば、海松はなみの岩ねに、根をはなれた

る草、海月は潮のうへに水にうつるかげ、ともにこれうき世を論じて、人をいましめたり、

〔御湯殿の上の日記〕慶長十四年五月七日、いたくらみ。一おりえん上申、

〔常陸國風土記行方郡〕郡西津濟、所謂行方之海、生海松及燒鹽之藻、

〔出雲風土記島根郡〕凡南入海所在雜物、○中海松、

凡北海所捕雜物、○中海松、

〔毛吹草三〕伊勢 海松 丹後 久美海松

〔後奈良院御撰何曾〕ぬれぶみ

〔本草和名九〕陟釐楊玄操音一名水中苔、一名河中側梨、一名水中鹿苔、已上二名、出蘇敬注、一名薄毛、一名衣、已上

出崔一名水衣、出兼一名水落、出雜和名阿乎乃利、

〔倭名類聚抄海菜〕陟釐 本草云、陟釐音經、一本作厘、和名阿乎乃利、俗用青苔、

〔箋注倭名類聚抄藻〕按本草和名引楊玄操云、音經、又音翬、蓋本草本作厘、與此所引同、厘塵通字、見

干祿字書、又釐字俗省作厘、見集韻、故音經、又音翬、若作釐、不得音經、作塵、不得音翬、千金翼方、證類

本草作釐者、蓋宋人所改、本草和名作釐、亦係傳寫者校改、伊呂波字類抄引本草和名作厘、醫心方

亦作厘、可以見作釐非輔仁之舊、○中與類聚名義抄作陟厘音經、撮壤集引此亦作陟厘合、則作釐

青苔